

4 鳥取県感染症発生動向調査情報（月報）

（鳥取県感染症対策推進協議会情報解析部会）

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年2月13日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第1週から平成30年第4週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(1週～4週)4週 (H30. 1. 1 ~ H30. 1. 28)	前回(49週～52週)4週 (H29. 12. 4 ~ H29. 12. 31)	前々回(45週～48週)4週 (H29. 11. 6 ~ H29. 12. 3)
1 インフルエンザ (4,464) [↑3,356]	1 インフルエンザ (1,108)	1 感染性胃腸炎 (454)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(487) [↓62]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(549)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(409)
3 感染性胃腸炎 (289) [↓213]	3 感染性胃腸炎 (502)	3 手足口病 (69)
4 水痘 (26) [↑3]	4 手足口病 (70)	4 RSウイルス感染症 (65)
5 咽頭結膜熱 (25) [↓28]	5 咽頭結膜熱 (53)	5 インフルエンザ (62)
5 突発性発疹 (25) [↓12]	6 RSウイルス感染症 (47)	6 咽頭結膜熱 (54)
7 その他 (46) [↓58]	7 その他 (104)	7 その他 (143)
(合計 5,362)	(合計 2,433)	(合計 1,256)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

※百日咳は、H30年1月1日より定点報告から全数報告に変更になりましたので、前回、前々回を含めて対象外としています。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、5,362件であり、120%(2,929件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 303%	流行性角結膜炎 85%
	手足口病 77%
	RSウイルス感染症 64%
	咽頭結膜熱 53%
	感染性胃腸炎 42%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 11%

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令されました。患者報告数は過去最高レベルであり、また、A型とB型が流行しており、引き続き注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。特に、中部及び西部地区で患者報告数が多く、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年3月13日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第5週から平成30年第8週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(5週～8週)4週 (H30.1.29～H30.2.25)	前回(1週～4週)4週 (H30.1.1～H30.1.28)	前々回(49週～52週)4週 (H29.12.4～H29.12.31)
1 インフルエンザ (4,301) [↓163]	1 インフルエンザ (4,464)	1 インフルエンザ (1,108)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (516) [↑29]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (487)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (549)
3 感染性胃腸炎 (385) [↑96]	3 感染性胃腸炎 (289)	3 感染性胃腸炎 (502)
4 咽頭結膜熱 (28) [↑3]	4 水痘 (26)	4 手足口病 (70)
5 その他 (57) [↑11]	5 咽頭結膜熱 (25)	5 咽頭結膜熱 (53)
(合計 5,287)	5 突発性発疹 (25)	6 RSウイルス感染症 (47)
	7 その他 (46)	7 その他 (104)
	(合計 5,362)	(合計 2,433)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

※百日咳は、H30年1月1日より定点報告から全数報告に変更になりましたので、前々回についても対象外としています。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、5,287件であり、1%(75件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎	33%	インフルエンザ	4%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%		

3 コメント

- ・インフルエンザ警報が発令中です。県内全域で患者報告数が多く、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年4月10日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第9週から平成30年第13週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(9週～13週)5週 (H30. 2. 26 ~ H30. 4. 1)	前回(4週～8週)5週 (H30. 1. 22 ~ H30. 2. 25)	前々回(51週～3週)5週 (H29. 12. 18 ~ H30. 1. 21)
1 インフルエンザ (1, 571) [↓4, 030]	1 インフルエンザ (5, 601)	1 インフルエンザ (4, 006)
2 感染性胃腸炎 (515) [↑ 49]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(660)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎(634)
3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (464) [↓196]	3 感染性胃腸炎 (466)	3 感染性胃腸炎 (458)
4 突発性発疹 (37) [↑ 8]	4 咽頭結膜熱 (35)	4 咽頭結膜熱 (48)
5 咽頭結膜熱 (30) [↓ 5]	5 突発性発疹 (29)	5 RSウイルス感染症 (45)
6 RSウイルス感染症 (26) [↑ 18]	6 水痘 (20)	6 手足口病 (35)
7 その他 (39) [↑ 8]	7 その他 (31)	7 その他 (87)
(合計 2, 682)	(合計 6, 842)	(合計 5, 313)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

※百日咳は、H30年1月1日より定点報告から全数報告に変更になりましたので、前々回についても対象外としています。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、2,682件であり、61%(4,160件)の減となった。

増加した疾病	
感染性胃腸炎	11%

減少した疾病	
インフルエンザ	72%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	30%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は減少傾向を示していますが、引き続き注意が必要です。
- ・インフルエンザ警報は4月4日に解除されましたが、患者の発生は認められるため、引き続き注意が必要です。
- ・梅毒は、患者報告数が増加傾向を示しており、警戒が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年5月10日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第14週から平成30年第17週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(14週～17週)4週 (H30.4.2～H30.4.29)	前回(10週～13週)4週 (H30.3.5～H30.4.1)	前々回(6週～9週)4週 (H30.2.5～H30.3.4)
1 感染性胃腸炎 (779) [↑390]	1 インフルエンザ (1,017)	1 インフルエンザ (3,681)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (405) [↑25]	2 感染性胃腸炎 (389)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (474)
3 インフルエンザ (352) [↓665]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (380)	3 感染性胃腸炎 (418)
4 突発性発疹 (36) [↑2]	4 突発性発疹 (34)	4 咽頭結膜熱 (26)
5 咽頭結膜熱 (29) [↑2]	5 咽頭結膜熱 (27)	5 突発性発疹 (21)
5 感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る) (29) [↑24]	6 RSウイルス感染症 (24)	6 その他 (40)
7 その他 (55) [↑24]	7 その他 (31)	(合計 4,660)
(合計 1,685)	(合計 1,902)	

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,685件であり、11%(217件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る)	480%	インフルエンザ	65%
感染性胃腸炎	100%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	7%		

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数が急増しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者が継続して発生しており、警戒が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年6月12日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第18週から平成30年第22週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(18週～22週)5週 (H30.4.30～H30.6.3)	前回(13週～17週)5週 (H30.3.26～H30.4.29)	前々回(8週～12週)5週 (H30.2.19～H30.3.25)
1 感染性胃腸炎 (1,051) [↑176]	1 感染性胃腸炎 (875)	1 インフルエンザ (2,282)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (458) [↓28]	2 インフルエンザ (494)	2 感染性胃腸炎 (531)
3 インフルエンザ (176) [↓318]	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (486)	3 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (508)
4 咽頭結膜熱 (89) [↑49]	4 突発性発疹 (46)	4 突発性発疹 (33)
5 突発性発疹 (56) [↑10]	5 咽頭結膜熱 (40)	5 咽頭結膜熱 (24)
6 RSウイルス感染症 (36) [↑9]	6 感染性胃腸炎(ロタウイルスによるもの) (31)	6 RSウイルス感染症 (20)
7 その他 (79) [↑11]	7 その他 (68)	7 その他 (44)
(合計 1,945)	(合計 2,040)	(合計 3,442)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,945件であり、5%(95件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
咽頭結膜熱	123%	インフルエンザ	64%
突発性発疹	22%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%
感染性胃腸炎	20%		

3 コメント

- ・咽頭結膜熱の患者報告数が増加しており、第22週に警報レベルに達したため、咽頭結膜熱警報が発令され、注意が必要です。
- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎は、患者報告数が引き続き増加しており、注意が必要です。
- ・梅毒は、昨年患者総数を上回り、警戒が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年7月10日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第23週から平成30年第26週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(23週～26週)4週 (H30.6.4～H30.7.1)	前回(19週～22週)4週 (H30.5.7～H30.6.3)	前々回(15週～18週)4週 (H30.4.9～H30.5.6)
1 感染性胃腸炎 (891) [↓ 36]	1 感染性胃腸炎 (927)	1 感染性胃腸炎 (807)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (354) [↓ 37]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (391)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (372)
3 咽頭結膜熱 (73) [↓ 6]	3 インフルエンザ (142)	3 インフルエンザ (300)
4 突発性発疹 (51) [↑ 1]	4 咽頭結膜熱 (79)	4 感染性胃腸炎(ロタウイルスによるものに限る) (37)
5 ヘルパンギーナ (30) [↑ 28]	5 突発性発疹 (50)	5 突発性発疹 (34)
6 その他 (68) [↑ 10]	6 RSウイルス感染症 (27)	6 咽頭結膜熱 (31)
(合計 1,467)	7 その他 (58)	7 その他 (64)
	(合計 1,674)	(合計 1,645)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,467件であり、12%(207件)の減となった。

増加した疾病	減少した疾病
突発性発疹 2%	インフルエンザ 96%
	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 9%
	咽頭結膜熱 8%
	感染性胃腸炎 4%

3 コメント

- ・A群溶血性レンサ球菌咽頭炎警報が発令中です。引き続き患者報告数が多い状況であり、注意が必要です。
- ・咽頭結膜熱警報は6月27日に解除されましたが、引き続き患者報告数が多い状況であり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎は、引き続き患者報告数が多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年8月9日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第27週から平成30年第30週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(27週～30週)4週 (H30.7.2～H30.7.29)	前回(23週～26週)4週 (H30.6.4～H30.7.1)	前々回(19週～22週)4週 (H30.5.7～H30.6.3)
1 感染性胃腸炎 (591) [↓ 300]	1 感染性胃腸炎 (891)	1 感染性胃腸炎 (927)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (309) [↓ 45]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (354)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (391)
3 ヘルパンギーナ (106) [↑ 76]	3 咽頭結膜熱 (73)	3 インフルエンザ (142)
4 突発性発疹 (45) [↓ 6]	4 突発性発疹 (51)	4 咽頭結膜熱 (79)
5 咽頭結膜熱 (40) [↓ 33]	5 ヘルパンギーナ (30)	5 突発性発疹 (50)
6 手足口病 (23) [↑ 12]	6 その他 (68)	6 RSウイルス感染症 (27)
7 その他 (55) [↓ 13]	(合計 1,467)	7 その他 (58)
(合計 1,169)		(合計 1,674)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,169件であり、20%(298件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
ヘルパンギーナ	253%	咽頭結膜熱	45%
		感染性胃腸炎	34%
		A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	13%
		突発性発疹	12%

3 コメント

- ・ヘルパンギーナの患者報告数が増加しており、特に中部及び西部地区で多い状況です。
- ・梅毒の患者報告数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年9月11日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第31週から平成30年第35週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(31週～35週)5週 (H30.7.30～H30.9.2)	前回(26週～30週)5週 (H30.6.25～H30.7.29)	前々回(21週～25週)5週 (H30.5.21～H30.6.24)
1 感染性胃腸炎 (472) [↓ 325]	1 感染性胃腸炎 (797)	1 感染性胃腸炎 (1,160)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (278) [↓ 103]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (381)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (483)
3 ヘルパンギーナ (156) [↑ 40]	3 ヘルパンギーナ (116)	3 咽頭結膜熱 (106)
4 RSウイルス感染症 (105) [↑ 80]	4 咽頭結膜熱 (56)	4 突発性発疹 (61)
5 手足口病 (43) [↑ 17]	4 突発性発疹 (56)	5 インフルエンザ (45)
6 突発性発疹 (36) [↓ 20]	6 手足口病 (26)	6 水痘 (22)
7 その他 (62) [↓ 6]	7 その他 (68)	6 ヘルパンギーナ (22)
(合計 1,152)	(合計 1,500)	7 その他 (60)
		(合計 1,959)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,152件であり、23%(348件)の減となった。

増加した疾病		減少した疾病	
RSウイルス感染症	320%	咽頭結膜熱	63%
手足口病	65%	感染性胃腸炎	41%
ヘルパンギーナ	34%	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	27%

3 コメント

- ・ヘルパンギーナの患者報告数が引き続き増加しており、注意が必要です。
- ・RSウイルス感染症の患者報告数が増加しており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数が引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・全国で風しんの流行の兆しが見えています。特に30代から40代の男性で多くの患者が発生しています。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年10月11日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第36週から平成30年第39週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(36週～39週)4週 (H30.9.3～H30.9.30)	前回(32週～35週)4週 (H30.8.6～H30.9.2)	前々回(28週～31週)4週 (H30.7.9～H30.8.5)
1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (266) [↑ 41]	1 感染性胃腸炎 (367)	1 感染性胃腸炎 (505)
2 感染性胃腸炎 (262) [↓ 105]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (225)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (271)
3 RSウイルス感染症 (175) [↑ 87]	3 ヘルパンギーナ (112)	3 ヘルパンギーナ (135)
4 手足口病 (92) [↑ 60]	4 RSウイルス感染症 (88)	4 突発性発疹 (47)
5 ヘルパンギーナ (71) [↓ 41]	5 手足口病 (32)	5 咽頭結膜熱 (33)
6 突発性発疹 (37) [↑ 11]	6 突発性発疹 (26)	6 RSウイルス感染症 (30)
7 その他 (77) [↑ 29]	7 その他 (48)	7 その他 (65)
(合計 980)	(合計 898)	(合計 1,086)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、980件であり、9%(82件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
手足口病	188%	ヘルパンギーナ	37%
流行性角結膜炎	133%	感染性胃腸炎	29%
咽頭結膜熱	100%		
RSウイルス感染症	99%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	18%		

3 コメント

- ・RSウイルス感染症の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・手足口病の患者報告数が増加しています。特に中部地区で多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は、引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数が全国的に多い状況です。多くは30代から40代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年11月13日(火)
鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第40週から平成30年第43週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(40週～43週)4週 (H30.10.1～H30.10.28)	前回(36週～39週)4週 (H30.9.3～H30.9.30)	前々回(32週～35週)4週 (H30.8.6～H30.9.2)
1 感染性胃腸炎 (233) [↓ 29]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (266)	1 感染性胃腸炎 (367)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (228) [↓ 38]	2 感染性胃腸炎 (262)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (225)
3 手足口病 (160) [↑ 68]	3 RSウイルス感染症 (175)	3 ヘルパンギーナ (112)
4 RSウイルス感染症 (106) [↓ 69]	4 手足口病 (92)	4 RSウイルス感染症 (88)
5 ヘルパンギーナ (80) [↑ 9]	5 ヘルパンギーナ (71)	5 手足口病 (32)
6 突発性発疹 (28) [↓ 9]	6 突発性発疹 (37)	6 突発性発疹 (26)
7 その他 (55) [↓ 22]	7 その他 (77)	7 その他 (48)
(合計 890)	(合計 980)	(合計 898)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、890件であり、9%(90件)の減となった。

増加した疾病	
手足口病	74%
ヘルパンギーナ	13%

減少した疾病	
流行性角結膜炎	54%
RSウイルス感染症	39%
咽頭結膜熱	30%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	14%
感染性胃腸炎	11%

3 コメント

- ・RSウイルス感染症の患者報告数は引き続き多い状況です。
- ・手足口病の患者報告数が増加しています。特に中部地区で多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数が引き続き全国的に多い状況です。多くは30代から40代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成30年12月11日(火)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第44週から平成30年第48週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(44週～48週)5週 (H30.10.29～H30.12.2)	前回(39週～43週)5週 (H30.9.24～H30.10.28)	前々回(34週～38週)5週 (H30.8.20～H30.9.23)
1 感染性胃腸炎 (417) [↑131]	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (288)	1 感染性胃腸炎 (401)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (397) [↑109]	2 感染性胃腸炎 (286)	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (318)
3 手足口病 (140) [↓49]	3 手足口病 (189)	3 RSウイルス感染症 (178)
4 RSウイルス感染症 (52) [↓99]	4 RSウイルス感染症 (151)	4 ヘルパンギーナ (99)
5 インフルエンザ (48) [↑43]	5 ヘルパンギーナ (94)	5 手足口病 (78)
5 ヘルパンギーナ (48) [↓46]	6 突発性発疹 (35)	6 突発性発疹 (47)
7 その他 (125) [↑59]	7 その他 (66)	7 その他 (88)
(合計 1,227)	(合計 1,109)	(合計 1,209)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,227件であり、11%(118件)の増となった。

増加した疾病	減少した疾病
インフルエンザ 860%	RSウイルス感染症 66%
感染性胃腸炎 46%	ヘルパンギーナ 49%
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 38%	手足口病 26%

3 コメント

- ・インフルエンザの患者報告数が増えており、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数が引き続き全国的に多い状況です。多くは30代から40代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。

鳥取県感染症発生動向調査情報(月報)

平成31年1月10日(木)

鳥取県生活環境部衛生環境研究所

平成30年第49週から平成30年第52週までの患者報告の状況

1 報告の多い疾病(インフルエンザ定点29、小児科定点19、眼科定点5、基幹定点5からの報告数)

今回(49週～52週)4週 (H30.12.3～H30.12.30)	前回(45週～48週)4週 (H30.11.5～H30.12.2)	前々回(41週～44週)4週 (H30.10.8～H30.11.4)
1 感染性胃腸炎 (470) [↑114]	1 感染性胃腸炎 (356)	1 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (256)
2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (340) [↑19]	2 A群溶血性レンサ球菌咽頭炎 (321)	2 感染性胃腸炎 (221)
3 インフルエンザ (279) [↑233]	3 手足口病 (114)	3 手足口病 (135)
4 手足口病 (85) [↓29]	4 インフルエンザ (46)	4 RSウイルス感染症 (83)
5 RSウイルス感染症 (42) [↑3]	5 RSウイルス感染症 (39)	5 ヘルパンギーナ (74)
6 咽頭結膜熱 (41) [↑21]	6 ヘルパンギーナ (32)	6 突発性発疹 (26)
7 その他 (125) [↑30]	7 その他 (95)	7 その他 (70)
(合計 1,382)	(合計 1,003)	(合計 865)

※[]内は前回との比較を表す。↑は増加したもの、↓は減少したもの、数値は増減の件数である。

2 前回との比較増減

全体の報告数は、1,382件であり、38%(379件)の増となった。

増加した疾病		減少した疾病	
インフルエンザ	507%	手足口病	25%
咽頭結膜熱	105%		
感染性胃腸炎	32%		
流行性角結膜炎	26%		
RSウイルス感染症	8%		
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	6%		

3 コメント

- ・インフルエンザは流行が始まり、注意が必要です。
- ・感染性胃腸炎の患者報告数が上昇傾向を示しており、注意が必要です。
- ・流行性角結膜炎の患者報告数が中部地区で多い状況であり、注意が必要です。
- ・梅毒の患者報告数は引き続き多い状況であり、注意が必要です。
- ・風しんの患者報告数は全国的に多い状況です。多くは30歳代から50歳代の男性が占めています。抗体価の低い妊婦の方は、特に注意が必要です。